

がん化学療法薬剤の開発の促進により、様々な治療が行われるようになりました。それに伴い、がん化学療法薬による新たな副作用が報告されています。しかし、副作用の原因については明確になっていないため、多くの副作用において、効果的な予防方法や治療方法が確立されていません。また、がん患者の治療の環境はめまぐるしく変化し、副作用への対処をはじめとして様々な問題が発生しています。この現状において、看護師として、がん化学療法に関連した研究活動を行っています。現在取り組んでいる内容は、主に以下の4つのテーマについてです。

1. がん化学療法薬による末梢神経障害における手足冷却法について

がん化学療法薬による末梢神経障害においては、効果的な予防方法が確立されていません。以前パクリタキセルによる末梢神経障害の冷却法の効果に関して臨床試験を実施・報告しました。現在、ほとんど報告のなかったビンクリスチンによる末梢神経障害に関して、フローズングローブおよびソックスを用いた冷却法の効果に関する臨床試験を実施しています。

2. (R-)CHOP 療法を受けた患者の栄養関連指標と各種副作用発生や生存期間について

悪性リンパ腫の代表的な治療である (R-) CHOP 療法について、栄養関連の身体計測値や血液検査データなどに着目し、治療後の発熱性好中球減少症やイレウスなどの副作用発生との関連や予後について解析しています。

3. がん化学療法施行時における穿刺に関連した問題について

末梢血管を穿刺して実施するがん化学療法においては、投与中に血管外漏出が発生することがあります。その予防はむずかしく、早期発見と迅速な対処が求められます。過去に発生した血管外漏出の事例を検討し、発生率の高い因子について解析しました。

また、皮下埋め込みポートを用いて治療を行う場合がありますが、その穿刺時にリドカインの貼付用局所麻酔剤を使用することで疼痛をどの程度軽減することができるか、効果について検証しました。

4. がん相談支援センターの相談内容について

当院のがん相談支援室の相談記録より、相談者の背景や相談内容などの情報を集計し、後方視的に解析し、文献的考察をしました。

【学会発表】

○2016 年度

- ・日本臨床腫瘍学会「当院のがん相談支援センターの相談内容の後方視的解析と考察」（ポスター発表）
- ・日本癌治療学会「(R-) CHOP および(R-)CVP 療法における麻痺性イレウス発生についての後方視的解析」（ポスター発表）
- ・日本がん看護学会「ビンクリスチンの末梢神経障害に対するフローズングローブおよびソックスを用いた手足冷却法による有用性の検証」（口演発表）

○2017 年度

- ・日本臨床腫瘍学会「びまん性大細胞型B細胞性リンパ腫における栄養指標の予後因子としての後方視的解析」（ポスター発表）
- ・日本血液学会「R-CHOP 療法における発熱性好中球減少症発生のリスク因子についての後方視的解析」（ポスター発表予定）
- ・日本がん看護学会「ビンクリスチンの末梢神経障害に対する手足冷却法による有用性の検証」（2017年8月現在：演題登録）